

～ハツとしたとき出るエッセイ～



坊守のひとりごと

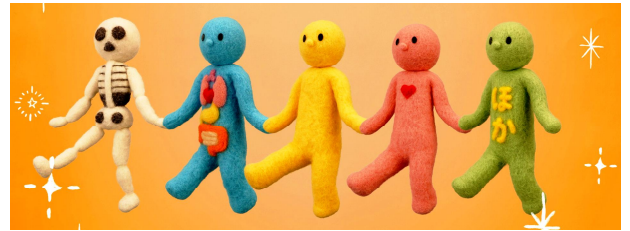


愛知県安城市和泉町中本郷41

2023年9月4日号

「きみがいるから」 作詞・作曲：谷山浩子

♪血管 ありがと いつもそばにいてくれて
 ♪いろんなものを 運んでくれて
 ♪内臓 ありがと いつもそばにいてくれて
 ♪ずっと眠らず 働いてくれて



入院中の義母のお見舞いから帰る車中、NHK「みんなのうた」からこの歌は流れてきました。思わず義母のことを思って涙が出ました。車を停めて続きを聴きました。

♪きみがいるから わたし今日も生きてる

※イラストは「みんなのうた」より

♪無口な優しさに守られて

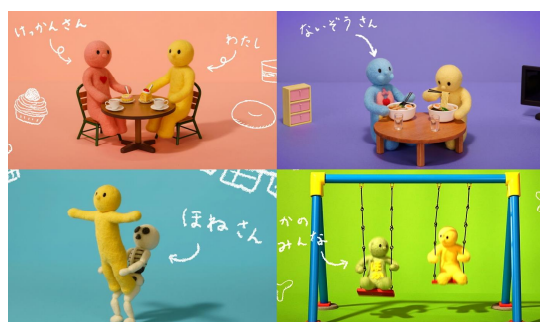
義母は2年前の7月、廊下で転んで大腿骨を骨折。手術、リハビリで3ヶ月入院。義母にとって80代後半での新しい人生の始まりでした。退院後は介護認定を頂いたお陰で、リハビリを目的にデイサービスで週2回通所。最初は馴染めなかったものの、少しずつ慣れて生活の張りができ、「今日はこんなことがあった、あんなことがあった」と楽しそうに報告してくれるようになりました。義母はお寺以外の社会生活をほとんど持たなかったので、新しい世界の始まりだと思えて家族ともども喜んでいました。

リハビリも順調に進んで以前よりも健康的な生活と思っていた矢先、原因不明の腹痛と出血があって大腸がんが見つかり、人工肛門の生活に。2度目の大腿骨骨折も重なって、義母は「私がこんな風になってしまって情けない」「面倒かけて申し訳ない」ということを度々口にするようになりました。私は、「この袋のお陰で安心して、お腹の痛みなく生活できるんだから、感謝しかないですよ」と、まるで親子が逆転してしまったような関係性になりました。

一方、90過ぎてもバスに乗って買い物に行くような元気な実母（東京都立川市）が先日、自宅玄関で転んで右肩と肋骨4本を骨折。入院しているうちに見る見る弱くなって、「あの母が…」と娘である私の方が意気消沈しています。

ふたりの母が「古い」の事実を見せて、人生集大成の大事を身をもって教えてくれています。どちらの母も、人生が完全燃焼できるよう精一杯サポートさせて頂きたいと強く思っています。

♪生まれたときからずっと 一緒にいたね
 ♪一緒に遊んで一緒に泣いて
 ♪陽射しのきらめく 野原を
 ♪きみと歩くシアワセ
 ♪きみがいるから わたし今日も生きてる
 ♪これからも笑って 生きていくよ



坊守
樋口頼子